

No. 56

2003

11月1日発行

萩の郷

発行者
下市田区
発行責任者
大屋敷 清利
印刷
下市田・キタバヤシ印刷

秋本番を迎えた萩のさと この時こそ、みのりの糧を体にも心にも



写真提供・竹村 進さん

去る、九月二十七日には、下市田保育園の運動会が行われ、萩のさとに元気な歓声が響きわたっていた。そのほか、九月から十月にかけては、高森南小の運動会、更には町民運動会と、まさにスポーツの秋の名にふさわしい行事が、身近なところで続いた。

その他、秋はいろいろな呼ばれ方をする。芸術の秋、読書の秋、食欲の秋、収穫の秋 etc……

過日開かれた下市田の「文化祭り」も、芸術の秋にふさわしく、区民の中に根付く「よりうつくしいもの」へのたゆみない努力の結晶が溢れ、それに見入る多くの人々にも、感動と安らぎを与えていた。

これらを含めて、秋は充実の時とも言えそう。万物全てがみのりの時を迎え、人間の心にも体にも充実感がみなぎる。それが厳しい冬に耐え、新たな息吹となる春を迎える為の原動力となるのだ。

われわれは、少しでも多くの機会をとらえ、このみのりの糧を、心にもからだにも与えることの必要な意味は、こんな所にこそあるのではないだろうか。

区的情勢について

区長 大屋敷清利

健康センターについて経過と現況を報告する。

平成九年十月、下市田区では高森町へ、次のような経過による研究報告の要望書を提出した。

『高森町公共下水道終末処理場を下市田の黒沢下に設置することに伴い、「健康センター」の建設要望が地元地域より出された。下市田区ではこれを区の問題と捕え、早々十二名の委員と区三役等で構成する研究委員会を設けて研究することになった。』

下市田区より委嘱を受けた委員は、平成八年度より研究を始め県内外数箇所の視察を行い熱心に検討を重ねた結果、基本的な方向を見出したのでここに報告する。』

町では、平成十二、十三年にかけて約一年、研究委員会を組織し研究した。

平成十四年度末、介護予防拠点整備事業として国庫補助金が約一・二億円交付されることになり、健康センター建設が急ピッチで動き出した。専門委員会・推進委員会を組織し、専門委

では、基本的な事項や施設内容・建設地等を類似施設

の現地視察も行い構想をまとめ上げ、推進委で承認を受けた。これを受けて、設計業者九社による提案説明会を開催し審査の結果「鈴木建築設計事務所」に決定した。

尚、建設予定地としては、二候補地のうち、下市田河原の試験場跡地となった。

今後は、本設計、建設業者による入札等を経て建設本年度中に完成の予定。

健康センターの内容は、

委員会活動報告

林務委員長

北沢 眞治

今年度の事業も前半が無事済み、山の神の区有林が特に荒れていることがわかりました。間伐、枝打ち、下草刈り等に重点をおき事業を進めたいと思います。

六月に区役員との見回り、七月には一・二・六区の皆様に山より山の神の間伐、枝打ちが出来ました。又、委員による林道不動滝線の草刈りを行いました。御協力有難うございました。

来年は、七年に一度の御柱祭を控え、御柱の見立て、

加齢による身体機能の衰えを遅らせ、健康を長く維持できるように、健康づくりと介護予防を行う施設。町民の誰もが気軽に利用でき、健康づくりのための機能を備えた施設。現役で働いている高齢者の憩いの場等々。施設内容としては、水中運動のできる温水プール、多目的に利用できるフロアー、休憩室・厨房等も備える。最後に、要望後情勢等の変化もあり長期化したことに対して関係者の寛大なご理解を切に願います。



切り出しを、巡礼沢と大丸山の二ヶ所で行う予定になっております。皆様のお力添えをよろしくお願い致します。

平成15年度 下市田区一般会計中間決算報告書

(自平成15年4月1日～至平成15年9月30日)

収入金計 26,351,893円 支出金計 15,507,631円 差引残高 10,844,262円

Ⅰ. 【収入金の部】

項 目	予算現額	決算収入額	比較(予算・決算)
1. 区 費	14,500,000	7,440,300	- 7,059,700
2. 繰 入 金	710,000	0	- 710,000
3. 町 支 出 金	8,700,000	8,891,212	191,212
4. 財 産 収 入	1,200,000	153,350	- 1,046,650
5. 寄 付 金	350,000	35,490	- 314,510
6. 消 防 義 務 金	2,250,000	2,130,000	- 120,000
7. 諸 収 入 金	500,000	151,551	- 348,449
8. 前 期 繰 越 金	7,549,990	7,549,990	0
収 入 合 計	35,759,990	26,351,893	- 9,408,097

Ⅱ. 【支出金の部】

(単位 円)

項 目	予算現額	決算支出額	比較(予算・決算)
1. 総 務 費	13,055,000	4,072,571	- 8,982,429
2. 環 境 衛 生 費	1,200,000	23,415	- 1,176,585
3. 林 務 費	1,000,000	199,462	- 800,538
4. 土 木 費	9,200,000	5,545,683	- 3,654,317
5. 水 利 費	2,660,000	3,405,629	745,629
6. 消 防 費	2,700,000	760,871	- 1,939,129
7. 公 民 館 費	3,000,000	1,500,000	- 1,500,000
8. 予 備 費	2,944,990	0	- 2,944,990
支 出 合 計	35,759,990	15,507,631	- 20,252,359

平成15年度 高森町公民館下市田支館 中間決算報告書

(自平成15年4月1日～至平成15年9月30日)

既収入額 2,305,224円 既支出額 1,763,464円 残 高 541,760円 (J Aみなみ信州預金残高 541,760円)

《収入の部》

科 目	予 算 額	既 収 入 額
1. 繰 越 金	550,000	622,216
2. 繰 入 金	3,000,000	1,500,000
3. 補 助 金	400,000	168,000
4. 雑 収 入	1,000	15,008
合 計	3,951,000	2,305,224

《支出の部》

(単位 円)

科 目	予 算 額	既 支 出 額
1. 総 務 費	1,990,000	900,344
2. 事 業 費	1,700,000	836,720
3. 広 報 費	20,000	0
4. 予 備 費	241,000	26,400
合 計	3,951,000	1,763,464

会談懇と議町元地

下市田区と公民館主催による「地元出身町議と区民との懇談会」が、去る六月十四日(土曜日)午後六時三十分より下市田区民会館に於いて行われました。五人の議員の出席を頂き、公民館支館長、区長の挨拶のあと各議員より議会報告をして頂き、その後質疑応答形式により懇談会を行いました。

任意合併協議会に参加すると合併が進んでしまうと町長は懸念しているが、合併協議会に参加し、財政サービス面で住民の負担はどうなるか、検討を進めていくべきである。

久保田昌幸議員

安心介護事業として、昨年までは、介護サービスの自己負担分一〇%の半分の五%を一律に支給していたが、サービスを利用しないのに支給はおかしいという点と、在宅と施設介護では介護する人の負担が違う点で在宅介護中心に一〇%全て町負担とするようにした。サービスを利用しない人に対しては介護度に応じて支給する介護家庭援護事業が作られた。

熊谷元尋議員

合併問題について町長は

小池正春議員

上市田で発生した事故により、PTAの要望で歩道橋設置の予算が計上されたが、現在ある横断歩道は消されてしまい、お年寄りの人にはかえって危険となる。町全体を見渡して歩道の設置、横断歩道の設置という必要な施設を作って安全を確保していくという点から予算は削られた。

上沼眞守議員

地域の横のつながりが町を支え、町おこしになっているので大切にしている。町の予算に対し税がどのように入り、どう使われているのか。減収していく近年どうしたら良いか審議し、健全財政を運営できるよう努力している。



アピタの天竜川沿いに、きゅうりの工業団地を三億一千万円の予算で、山吹地区が農業法人を作って建設する予定。都会からも町へ人を呼び込んで農業繁栄を図りたい。

質疑応答

Q 焼肉さかい旧えのきやさん信号までの路側溝の間に数ヶ所溝のフタがありアスファルトとフタの間に三〇五cmの段差があり、自転車のタイヤがつかえて危険である。

A 県の管理下にあるので、現場を見た上で県に申し入れすると共に、町の方へも申し出て改善に向けて努力する。

Q 十四年度に高森荘に出来る予定だった障害者施設が実現しなくなったのは、家族の会の心情を考えたらずせない。県・国へ要請して頂きたい。

A 障害者授産施設建設に向けて県は支援したが、国の不許可という残念な結果になった。住民の陳情書が議会へ提出するののも一つの方法かと思う。九月議会できり上げ国の方へ上げていく方法もある。

Q 史談会において古文書の整理が一段落ついたが、今後古文書を保存する場所が必要だが下市田学校を活用してはどうか。

A 下市田学校の所有が下市田なので、区民がどうするか考えるべきである。資料を保管するには現状では不適當である。前進するよう考えていきたい。

Q 下市田保育園において一人の保育士が三十名余の園児を保育しているのは安全面他で不適當と思われる。又四月当初定員一杯のことで、入園を断り五月途中から入園できた人もおり、不公平である。

A 議会として、町へ強く申し入れをする。入園希望の件も行政不審に繋がるので、町へ要望する。

Q 五区の旧えのきやさん横の手押しの信号は車と接触する危険があり、安全対策をとってほしい。

A 県に働きかけている状況である。

Q 中学のそばに外灯がないので暗くて心配です。

A 善処致します。工業団地黒沢川



内側の農免道路の管理をやってほしい。

A 建設課に申し入れる。その他として、①ゴミ、空き缶、犬のフンの問題。②出砂原の長年の懸案であるJR踏切りが狭い事、街路計画の推進の要望。③処理場の健康センター建設は十月着工に向けて前進している。④合併問題について近隣町村の立場も考えて推進してほしいとの要望がありました。

区民約八十名の出席の元有意義な懇談会でした。町議五名の今後の御活躍を祈って報告を終わります。



迫力ある呼び込み太鼓



可愛らしい保育園児の踊り

鳴り響く呼び込み太鼓で、周囲の雰囲気が増え、各々の座席では賑やかに談笑する声や景気付けの乾杯の聲が上がり、それぞれが、それぞれにこの祭りを楽しんでくれています。会場の一角では「縄文の火起こし」が体験でき、子どもだけでなく大人たちも覗き込みながら、入れ代わり立ち代わり煙を立ち上がらせている子に声援を送る姿が見られます。

そしてお楽しみコーナーに集まる人もどんどん増え、各々の座席では賑やかに談笑する声や景気付けの乾杯の聲が上がり、それぞれが、それぞれにこの祭りを楽しんでくれています。会場の一角では「縄文の火起こし」が体験でき、子どもだけでなく大人たちも覗き込みながら、入れ代わり立ち代わり煙を立ち上がらせている子に声援を送る姿が見られます。



大人気！ お楽しみコーナー

区民会館の近くを通りかかった時に、青々とした芝の広場を見ては、ふと「こ

雨なんてなんのその

7月26日

萩の里祭り

んなに整備された広場を持っているなんて、すごいことだなぁ。何に利用しているのだろう。」と、感心するやら不思議に思うやらでした。が、この度支館部員として下市田区の公民館活動の一端を担う立場になり「萩の里祭り」を企画・運営することになった。と思うことしきり。

そして、七月二十六日。テントが立ち並び、中央の舞台を取り囲む様に各区のシートが並べられ、広場はいつの間にか、祭りの開始を待ちわびる人で、一杯になっ

ています。この本番を迎えるまでに、企画・運営に集まった支館部員一同は、全てが初めてで、戸惑うばかりでした。手元にある、これまでに同様の役を努めてこられた方々が残して下さった実施記録や、申し送り事項をたたき台に、だんだんと方向が見え始め、今年の形を成していきま

した。オレンジ色の火種がヒノキの木片に移ると、「おお、やった。」と、喚声が上がりま



がんばれ！ 縄文の火おこし

平成15年度 下市田文化祭り・敬老会 10月18日・19日



記念品を受ける吉川まつさん

午前九時に集合し、展示会の作品を出品される方々と協力、創意工夫し展示を行いました。今回の展示発表は、参加グループ数が二十団体、二個人、展示作品数は二百九十六作品でした。屋外には盆栽、屋内では古文書・絵画・書・彫刻・手芸・陶芸・生花等が陳列されました。一つ一つの作品を

拝見しますと、総て作者の人となり伝わってくる様な素晴らしい作品ばかりです。来観者の中には、じつと作品を観る人、質問をされる人、写真を撮る人と、それぞれのさまでした。二日目は、九時より開催され、午後十二時三十分より敬老会が催されました。七十七歳、八十歳、九十歳以上のご高齢者の方々と対象に、区から長寿を祝い表彰を行いました。次は舞台発表です。美しい音色の大正琴、艶やかな民謡、凛々

しい詩舞、華やかなエアロビクス、陽気なハワイアン、琴線にふれる民謡、そして最後は軽快な音色の楽器演奏と、四時迄式典と発表会が行われました。忙しくもあり楽しい二日間でした。多くの方々協力、無事終了した事を喜ぶと共に、これからも下市田の文化が発展される事を願います。

柴田記



すばらしい盆栽の数々

部員から見た二日間
今年も、十月十八日と十九日に「下市田文化祭り・敬老会」が開催されました。前日の天気予報では十八日は曇り時々雨といわれていましたが、当日は雨も降らず、両日共に爽やかな風が吹く、初秋の二日間でした。一日目の十八日は、午前中が準備で午後から展示発表とぐるりウォーキングでした。幸い天気が良かったこともあり、ぐるりウォーキングの参加者及び公民館の来場者数ともに、昨年を上回る方々が出席され、にぎわいました。二日目の十九日は午前中

展示発表会と茶道接待、午後は敬老会式典と舞台発表という内容でした。夏の「萩の里祭り」、秋の「下市田文化祭り・敬老会」と支館の大きな行事です。ほとんどの部員にとっては初めての経験であり、暗中模索の状態での出発でしたが、何回かの会議を重ねる中で、部員一人一人が自分の役割を理解し、素晴らしい行事になる様にまとめてまいりました。前日(十七日)には、分館・支館役員の皆さんと部員が協力し、会場準備にとりかかり、万全を期してきました。さていよいよ当日です。



会場いっぱいの にこやかな顔々



かわいらしいプチ・エンジェルのダンス

ようこそ下市田へ

ふれあひの広場に唄ふ曲
名を「どんぐり」と知り郷
人になる

のは、高森方式の
ごみの選別でした。
都会では、袋一つ

ふるさとでの再出発

4区北原政利

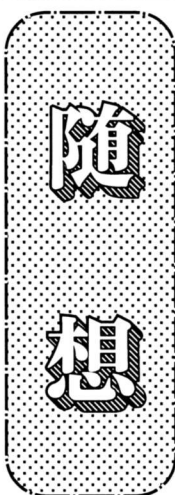
故郷を離れて
四十五年、都会
でのサラリーマ
ン生活に終止符
を打ち、昨春実
家のある下市田
に戻って参りま
した。少年時代
を野山で遊び、
南アルプス・天
竜川を眺めなが
ら育ちました。
郷を離れてい
ても、この豊かな自然は、
心の支えであり自慢の種で
もありました。
再出発で、先ず戸惑った
のは、高森方式の
ごみの選別でした。
都会では、袋一つ
で済ませていたので、慣れ
るまでは大変でしたが、最
近では、スムーズに仕分け
られるようになりました。
萩山神社の春祭りで聞い
た笛と太鼓の音、孫と一緒に
食べた綿飴の味は、幼日
に戻してくれました。
農作業では、草刈機、耕
転機、田植機等、初めての
ものばかりで、なかなか思
い通りに動いてくれず、数
十年の空白はあまりにも大
きいものでした。
地域の皆様から親切なア
ドバイスをいただき、冷夏
と言われながらも、稲作二
回目の収穫にこぎつけまし
た。今後ともよろしくお願
い致します。



完歩、百里の秋葉参り

二区 蜂谷睦雄

山吹藩家老片桐源栄が、
文化三年弥生月に秋葉参り
に立出。道中記「秋葉の枝
折」を残しており、それに
興味を惹かれていた矢先、
湯澤惣一さんからの誘いを
受け、平成十三年二月から
翌年にかけて約百里の道を同
行者と共に完歩しました。
その時に詠んだ愚作短歌幾
首かを、
源栄が酒をたしなむ姿想ひ
小川の郷を友と往く我
大地覆うしだれ櫻の枝影に
墨染めの衣荒き谷風
深雪する小川の峠路踏み込
めばその深きこと五十セン
チ
石垣に山寺の跡偲びつつ振
り返り見る雪の小川路
小川路は秋葉参りの最難路
一番観音に先ずは詣でて
火ふり場に立てば大樹のか
ら松の枝間に映えるアルプ
スの雪
咲き満つるま
んさくの小川
路越え行かば



デイサービスセンターでの出会い

六区 北原千恵

縁あって、九月末より、
実家近くのデイサービスセ
ンターでお手伝いをするこ
とになりました。そこで、
父方の祖父母を知る人と出
会うことができました。
祖父母共、私が幼い時に
亡くなったので、思い出と
いっても、あまり記憶に残
るものはありませんでした。
祖父は大変無口で、声を
縁あって、九月末より、
実家近くのデイサービスセ
ンターでお手伝いをするこ
とになりました。そこで、
父方の祖父母を知る人と出
会うことができました。
祖父母共、私が幼い時に
亡くなったので、思い出と
いっても、あまり記憶に残
るものはありませんでした。
祖父は大変無口で、声を

松風にのり鶯の声
石積みのにまだに残
る峠茶屋苔むす石に
往路を偲ぶ
寛政や安永の墓石立
ち並びこの小川路に
人棲みし跡
霜枯れた高き紅葉の
枝下にちらほらと咲
く茶花愛ほし
遅秋に紅き野いちご
りんどうの紫映える
芝草の道
西ひらの山の凹みの
奥深く秋葉の山は鎮
座し居ます
荷運びの馬車が通いし岩肌
に輪だちの深く二筋残る
馬宿の北の隣の太子堂白砂
にほうきの跡すがすがし

私は、その話を聞きながら
嬉しい気持ちになりました。
写真でしか覚えていない祖
父母が、生きているように
想像できたからです。私の
息子は、ひょうきんでおしゃ
べりなのですが、祖母に似
たのかしらとも思いました。
年輩の方々は、私達が生き
ていなかった時代の出来事
をたくさん経験されていま
す。そのお話は、戦争体験
や、物のない時の悲しい話
もあり、為になる話もあり
ます。野菜の作り方、着物
の着方、お寿司の巻き方、
食べられる草、毒のある物
等々。
そんな話を聞きながら、
仕事としてではなく、私の
楽しみとしてお手伝いを続
けて行けたらと思います。



蜂谷さんは後列左より4人目

わたしの作文



ぼくの作文



中学生になって

中一 塩沢佳崇(五区)

僕が中学生になって一番楽しみにしていたのは部活です。僕は入学する時から部活を何にするか決めていました。それは僕の兄もいる陸上部です。部活見学の時もほとんど陸上部に行っていました。なぜかという

と陸上部でずっとやってきたかった種目があったからです。それはジャベリックスローと砲丸です。この二種目はずっと投げてみたくて部活に入りました。それにラダーとかも楽しそうだったし、体力もつくと思って入りました。陸上に入ってからとけっこう楽しくて、一年で入った人も知っています。人だったのでもうラッキーでした。一人だとなんかやだったけどみんないたのよかったです。始めはラダーの練習をして種目練習はできませんでした。

けどやっている間に練習も終わって種目練習になりました。はじめはジャベリックスローをやっていました。が、僕にはあわないうたいで、砲丸をやりました。そうしたらこっちの方がよくてすぐく飛びました。だから種目を砲丸にしました。毎日やっていると手が



組体操

小6 木下美咲(4区)

九月の二十日に、南小学校で運動会がありました。私は赤組で、小学校生活最後の運動会はぜったいに勝ちたいと思っていました。ですが、組体操を成功させたいという気持ちのほうがいいです。逆立ち両面倒立。いろいろな技がくり出されていきます。そして最後に「大技ムカデ」全部成功して最高の気分でした。



私は「まちがえないか。」私の最高の思い出になりました。

ぐるりウォーキング

10月18日

秋晴れのさわやかな一時下市田支館に於いて今年も町内の史跡を見て回るぐるりウォーキングを文化祭りに併せ、大勢の参加を頂き実施する事が出来ました。

今回は幸い天候にも恵まれ、盛大に出来た事を嬉しく思います。史談会の皆さんや自然愛護会の皆さん方には大変お世話になりました。特にぐるりウォーキングの間中、説明して頂いた北澤善二郎さんには大変お骨折りを頂きました事を深く感謝申し上げます。その史跡の一部を代って紹介したいと思います。

下市田支館より南小学校へ登る道の中ほどより山側へ少し登ると古御屋と呼ばれる松岡城址支城見張所跡があり山の中に土塁を高く積んだ場所があります。又、南小学校北側には松岡氏が舞台を設けて猿楽を催したと云う猿楽塚、昨年社が老朽になり取り壊し石碑に建



て替えられたいちだの宮を通り大丸山上壘堀切遺溝、松岡氏の本城と支城(吉田)との中間に位置しているため堀切の東に監視所・狼煙台があったとの事。中学校グラウンド南側に矢の根塚、北の原へ下り北原第二号塚、北原遺跡、今現在発掘途中でここから出た遺跡、土器、石器等は北原式と言いい全国的にも有名。又、下市田中のお米千俵詰めた云う郷倉、樹齢百四十年の柏の大樹、積善組合会所跡、秋葉大権現・金比羅大権現の大石碑、十王堂など周り、短い時間ではありましたが、ゆっくり歩き景色を眺め、改めて下市田を再発見する事ができました。林記

六区出砂原自治会

会長 原田 州康

の協議を行い、役員会が主体となり会の運営を行っております。

地域の紹介

出砂原地域の紹介をさせて頂きます。出砂原は平成七年に出砂原部落会から出砂原自治会に名称を変更致しました。そして平成十三年四月に

常会の再編成を行い、常会数八常会、組合数十七組合、会員数百六十七戸、独立世帯は十九戸、アパート入居世帯三十三戸で合計二百十九戸と云う規模の自治会です。自治会役員は正副自治会長・庶務と会計の三名、公民館分館長・分館主事の二名、女性の会正副会長二名、常会長八名・合計十五名の構成になっております。月一回から二回の常会長会



八月初旬にはお祭り広場で納涼祭、又八月十五日と十六日は盆踊り大会を盛大に行いました。この他下市田区、公民館、町の事業にも積極的に参加致しております。

グループ紹介

高森ハワイアンダンスクラブ

三区 酒井栄子

今から二年前の九月、県老人大学在学中のある日、友人から「竜丘公民館でハワイアンダンスの第一回講習会があるけど参加してみない？」と誘われ興味津々行ってみました。開催時の参加者百二十名、

講師として招かれたのは東京江戸川のハウラフラオリラニ・高橋充子先生。『皆さんハワイアンダンスの世界にようこそお越し下さいました。今日から皆さんの生活が健康で若々しく明るく毎日になり、より美しくエレガントに輝いていくでしょう。ハワイアンダンスは心を和ませてくれる音楽に合わせてゆっくりと動きながら何時の間にか汗を流していると感じるものです。』と、基礎

その日から仮称『生涯スポーツを広める会』として発足し、会長・今村邦彦（竜丘）、副・小林千鶴子（竜丘）を中心に月一回高橋先生をお招きして指導を受けております。



右より3番目が酒井栄子さん

参加者は多方面にあり、高森からは九名。他に自主練習も月二回行っております。

昨年『ピリラニ飯田』として東京の発表会参加。マヒナスターズ生演奏にあがりましたがいよいよ出。昨今はボランティアでディサービス等の訪問も。アロハの心”を大切に頑張ろう!!と思っています。

区委員

スポーツ大会

H15年10月5日

下市田区代議員・各委員合同スポーツ大会を十月五日に区民会館前の緑地広場で開催しました。種目はグランドゴルフで一チーム四名で行いました。本年のグランドコンディションは芝刈りも十分にされており、最良の状態でしたが、なかなか球は思い通りにはいかず、各自それぞれ苦労されていました。それでも二名の方がホールインワンを達成されました。豪華な賞品(?)が用意してあると云うことで皆さん一生懸命がんばっていただきました。結果は第一位が村沢利美

編集後記

さん、二位上沼長彦さん、三位富田紘さんでした。代議員・各委員は普段なかなか一緒になる機会がなく、氏名も顔も知らないと言うことで、慰労会には有意義な交流が盛大に行われました。今後この様な交流会が行われ、協調して区の運営がなされれば良いと思います。

最後に当番の林務・消防の委員の方々、大変ご苦労様でした。「萩の郷」五十六号が出来上がりました。今回は決算報告を含め地元町議懇、萩の里祭り、文化祭り・敬老会・ぐるりウォーキングと、次々と挙行された諸行事の内容で、紙面狭しとばかりにその余韻を感じます。行事の集いを通して人の和が結ばれ、広がって、快い充足感に満たされる幸せを共に享受できれば、主催者として望外の喜びと存じます。柿の実が夕日に映え萩の郷は今、取入れの秋、そして発刊二十周年の節目、先輩諸氏の苦勞を偲びつつご高覧下されば幸甚です。

訂正

区報56号6頁

随想「完歩、百里の秋葉参り」の最初から6行目

湯澤惣一は

湯沢操一

の誤りでした。お詫びと共に訂正いたします。